

平成30年度第2回 伊賀市ごみ減量・リサイクル等推進委員会 議事概要

日 時：平成31年2月22日（金）午前10時から

場 所：さくらリサイクルセンター2階 大会議室

出席者：委員14人中13人

今岡委員長、川瀬委員、松本委員、福嶋委員、福島(一)委員、福島(康)委員、
中島委員、森岡委員、前川委員、三輪委員、住澤委員、森西委員、前山委員

事務局：田中人権生活環境部長、高木人権生活環境部理事

廃棄物対策課 西尾課長、林副参事、増井主幹、赤津主査

さくらリサイクルセンター 福永所長

浄化センター 南所長

<議事概要>

(西尾課長による進行)

1. 田中人権生活環境部長挨拶

ごみのRDF化を夏場に終了させていただくことになり、さくらリサイクルセンターについては、ごみ処理の中継施設として機能を変えさせていただいて、民間処理するため地元の花垣地区のご理解をいただき先月1月15日に地元との協定を結ばせていただいた。

8月から新しいごみ処理の方法でさせていただくため、中継施設工事の発注を行ったところでございます。

また、ごみ処理の海外情勢で昨年の10月から12月にさくらリサイクルセンターへ搬入されたペットボトルの量は、前年同月比二桁の増となっており、中国等で処理が出来なくなった影響で集まってきていると思われまます。

今後、ごみの処理方法が変わることや国内外の情勢に対応して分別区分の変更などの検討も必要になるかと思ひます。収集区分を分かりやすくすることと資源化率向上を両立させ、さらにごみを減らすという課題をクリアすることは簡単ではありませんが、より良い方向性を見出していくため、皆さまのご協力をいただき進めさせていただきますので、よろしくお願ひします。

(今岡委員長による進行)

2. 議題

(1) 災害廃棄物の処理方法について

事務局から資料1に基づき説明

- ・熊本地震や平成30年7月豪雨などの大きな災害が発生したことを想定し、大量に発生する災害廃棄物をどのように処理していくのか、大まかな流れを資料「災

害時のごみの流れ」にまとめています。

(2) 不法投棄物等回収専用ごみ袋制度について

事務局から資料2に基づき説明

- ・平成30年度不法投棄物等回収専用ごみ袋月別交付一覧表は2月8日時点で作成したもので、2月は0件となっていますが、その後2地区ほど申請がありました。

(3) 2019年度資源・ごみ収集カレンダーについて

事務局から資料3に基づき説明

- ・伊賀北部地区は前年度と収集回数や分別に変更はありませんが、青山地区の「トースター」の分別区分が金属類から燃やさないごみに変更となります。
- ・ゴールデンウィークが10連休となることから、伊賀北部10地区は可燃ごみの収集を4月30日と5月2日に分けて対応。青山地区の燃やすごみの収集は通常どおり行います。
- ・ごみカレンダー「日本語版」は、広報いが市3月1日号と併せて配布します。

(4) RDF化終了とごみの収集・処理について

事務局から資料4に基づき説明

- ・2018年7月19日の三重県RDF運営協議会総会において、RDF製造団体は2019年9月を軸に発電所へのRDF搬入を終了し、新たなごみ処理体制に移行することなどが決議されました。これに伊賀市も歩調を合わせて、伊賀市における廃棄物処理のあり方検討委員会の答申に沿って、過渡的な対応としてさくらリサイクルセンターを中継施設とし、民間処理委託を行うことで、花垣地区に対し経過や方向性の説明をさせていただき、地元からのご意見を伺いながら協議を進め、このほど花垣地区環境対策推進協議会との協議が整い、協定を締結させていただきました。
- ・中継施設として利用するため、中継設備等設置工事の入札を2月5日に実施。工事の概要としましては、前処理破砕機等の撤去、ごみ受入ホッパ・シュートの設置、ごみ収集車の洗車污水やプラットホームでの清掃用污水排水処理設備設置及び付帯工事です。

(5) (仮称) 汚泥再生処理センター建設工事の進捗状況について

事務局から資料5に基づき説明

- ・現在、躯体のコンクリート工事はほぼ終了し、地下の電気工事や機械設備工事を始めており、2020年3月の完成に向けて進捗を図っているところです。現在、全体として進捗率は、およそ40%となっています。

3. その他

委員から PCBを含む安定器に関する文書が三重県から届いたことについて

【質疑応答】

委員

RDFの中止については早くから新聞発表等によく分かっていますが、さくらリサイクルセンターに中継施設を作り、その後ごみは民間に委託するということですがワンクッションを置いてやる仕方も一つの方法であると思うが、それに伴いごみ処理の経費が上がってきて、例えばごみ袋に跳ね返ってくることはないのか。経費として当然上がってくると思うが、民間委託でする場合と中間で一旦伊賀市が積み替えると経費が二重に重なってくると思うが、その辺の経費についての負担は、現在市の方で考えているのか。それとも市民にある程度負担を余儀なくされるのか。その辺りの見通しはどうか。

事務局

前半の部分何ですが、RDFを作るのにRDFを運転するための全体の経費が約13億円かかっています。経費を色々検討していますが、現在と中継して民間処理委託する経費を比較すると現在よりか約2～3億円経費を抑えられるシミュレーションができましたので、上がることは想定していません。ごみ袋に上乗せすることは現時点では考えていません。

委員

私も知っていますが、当初はごみ1t当たり千円を県から補助を出すということでRDFが三重県下で普及してきたわけですが、途中から千円は払えないということで、逆に段々と1t当たり1万円程度経費が必要となった。

経費がトントンで行けるようであれば出来る限り市民に負担がかからないような方策、取り組みをぜひお願いしたい。

事務局

今の中継施設化のご質問で、補足させていただきます。

廃棄物処理に関する法律がございまして、廃棄物には一般廃棄物と産業廃棄物の二種類があり産業廃棄物の20種類以外が一般廃棄物という形になっており、その一般廃棄物は市町村が責任を持って処理をしなければならないという基本的な法律の方針がございまして。

それと、現在市が委託しているパッカー車と事業系一般廃棄物のパッカー車だけでも1日60～100台をさくらリサイクルセンターへ搬入しており、多くの台数のままだと民間処理施設へ直接進入できないのが現状です。

そういった中で、さくらリサイクルセンターのごみピットを有効に活かして一般市民の方には今までどおりごみの持ち込み方法とか一切変更しない形で考えております。所長が言わせていただいたように2～3億ほど処理が安価になると予測もしています。ごみ袋の

金額についてはそれとは別に2019年度は消費税率が変わりますので、消費税分をどうするかは今後検討させていただきたくご理解の程よろしくお願ひしたいと思ひます。

委員

汚泥再生処理センター建設工事について、台風の時、クレーンが倒れたと聞いたが、けが人などなかったのか。

事務局

大きなクレーンが2台あった1台が台風の風で倒れてしまひまして、けが人はなかったが、建物に少し被害がでました。それに代わって車のクレーンで対応させていただいた。

委員

工事には大きな遅れがなかったということですか。

事務局

躯体の方に倒れなかったが違う方向に倒れたため、現場の事務所や駐車場の屋根を少し損傷しましたが、躯体には影響がなかった。

委員

最近、私のところに県から安定器の中にPCBが含まれていて、廃棄処理する期限が近づいてると。期限が過ぎると処理できませんと言うような封書が届いた。

期限が切れて、もし発見された場合、どうしたらいいか。

事務局

県の廃棄物リサイクル課にお問い合わせいただけたらと思ひます。

委員

一般の家庭にはあまり関係がないような説明文だったが、倉庫とかの蛍光灯の安定器の製造時期によってそう言う有害物質が使われているという説明であったが、一般ごみの収集日に出して良いものか。

事務局

特別管理廃棄物であり、さくらリサイクルセンターでは処理ができないものです。

委員

自分と見て、どれが蛍光灯の安定器とか何年前とか分からない。その関連の方なら分かると思うが。

委員

県の文書には連絡先は何カ所か載っていたが、とりあえず連絡くださいとしか載っておらず不安になったので、お聞かせいただいた。

以上